

# efit+ for TCU Ver.1.3.2.0 アップデート概要

2011年11月  
株式会社 ニコン・トリンプル

本書では、efit+ for TCU Ver.1.3.2.0 で追加、変更された機能の概要を説明します。

## ソフトウェア構成表

◆efit+ for TCU Ver.1.3.2.0 の製品構成は下記の通りです。

製品名	コード	備考	改良
efit+T 測量基本ソフト	B-E1-T00	基本キットに含まれます	Trimble VISION対応、登録文字追加など
efit+T 測量観測	B-E1-T50	基本キットに含まれます	平面観測に後視点チェック機能追加
efit+T 測量計算	B-E1-T51		
efit+T 線形計算	B-E1-T52		
efit+T 縦横断観測	B-E1-T53		横断観測に後視点チェック機能追加
efit+T 平板観測	B-E1-T54		
efit+T GPS観測	B-E1-T55		
efit+T オートフォーカスOP	B-E1-T56		
efit+T 地籍観測	B-E1-T57		新規パッケージ追加

## 地籍観測パッケージの追加

地籍観測オプション

◆本バージョンより地籍観測パッケージ(オプション)が追加されました。

搭載ソフトは、図根点観測、突出点観測、筆界点観測、地籍データ送信、地籍データ復旧の計5本です。



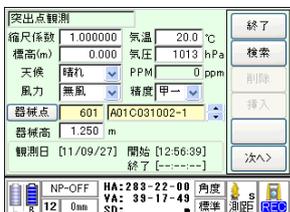
◆図根点観測は、

おもにDF工程で利用し、図根多角点もしくは細部図根点を路線形状で観測するプログラムです。精度区分を指示するだけで、観測対回数や精度検査の制限値などを設定する必要がありません。また、測点名の自動作成や現場での路線精度の検査が行えます。



◆突出点観測は、

おもにF工程で利用し、突出点を1対回で観測するプログラムです。検測点に座標が登録されていれば観測値との精度検査が行えます。また、測点名の自動作成が行え、煩わしい文字入力を省略できます。



- ◆筆界点観測は、おもにF工程で利用し、筆界点を半対回で観測するプログラムです。点検点に座標が登録されていれば観測値との精度検査が行えます。また、測点名の自動作成が行え、煩わしい文字入力を省略できます。



## ■ 後視点チェック機能の追加 平面観測 / 横断観測

- ◆平面観測の1r視準点観測画面と横断観測の間接設置時のTS視準点観測画面に後視点チェック機能を追加しました。後視点チェック機能は、観測を進めている間に器械がズレていないかを後視点を観測してチェックする機能です。
- ◆後視点チェックの動作は、次の動作を行います。



- [後視チェック]ボタンを押します。



- 機器は、後視点方向へ旋回を開始します。



- 旋回完了後、接眼レンズから後視点をチェックして正常であれば[OK]ボタンを押します。[キャンセル]ボタンを押すとメッセージを閉じて後視チェックを中止します。チェックがNGの場合は観測を一旦終了して器械を整準し直してください。



- 上記画面で[OK]ボタンを押すと、機器は後視チェック前の場所へ旋回を開始します。



- 機器が元の位置に戻ります。

以上